

静岡 DWAT 出前講座 報告

賀茂地区介護支援専門員協会 防災研修

- 日 程：令和4年6月2日（水）14：00～15：30
- 会 場：道の駅開国みなと（下田市）
- 参加登録員：特別養護老人ホーム姫の沢荘 白井 淳兵 氏
聖隷ケアプランセンター三方原 深澤 和弘 氏（リモート参加）
- 参加者：賀茂地区介護支援専門員協会 会員 約40名
- 内 容：静岡 DWAT の熱海派遣活動報告、災害支援チームの紹介

【活動の様子】

前半は、事務局から静岡DWAT組成の経緯や、熱海派遣の概要を説明し、後半では実際に支援活動に参加した登録員で、参加者と同じ介護支援専門員である白井さんと深澤さんに生の声で活動を振り返っていただきました。

深澤さんからは、特に福祉専門職の視点で避難所の環境整備についてご報告いただきました。また、毎日のように初対面の外部支援者が訪ねてくる中で、顔なじみである担当ケアマネの避難所への訪問を安心した表情で出迎える避難者の姿から、担当ケアマネの存在の大きさについても触れていました。

白井さんは、静岡DWAT登録員としても、熱海市介護支援専門員連絡協議会の役員としても活動されたことから、外部支援者から何度もケアプランの確認や要望の連絡が担当ケアマネのもとに寄せられ、混乱を招いていたことが報告されました。

お二人の報告では、共通して担当ケアマネとの連携のあり方が課題として挙げられ、白井さんは、協会として日頃から受援を意識し、担当ケアマネとの連絡ルートの整備など、情報共有の仕組みを構築し訓練をしておくことが効果的ではないかと指摘しました。

参加者の中には県介護支援専門員協会の介護相談ブースの活動に参加された方もいて、現地で様々な職種のチームの名前が飛び交っていて戸惑ったという経験から、熱海で活動した災害支援チームについて紹介してほしいというリクエストもありました。お互いの強みを生かして、頼り頼られ合いながら避難者を支える体制を作るためにも、まずは他職種チームのを知ること、そして静岡DWATのことを知ってもらうことが重要だと改めて感じました。

